

市長定例記者会見（令和5年6月20日）録

11時30分～11時58分

題材に入ります前に、「G7香川・高松都市大臣会合」につきまして、一言、申し上げたいと思います。

G7香川・高松都市大臣会合でございますが、来月7日から3日間、いよいよ開催されるようになっております。昨年のドイツからの会合でございますので、日本ではもちろん初めての開催となります。今回の都市大臣会合でございますが、都市問題ということで自動車に依存した都市構造からの転換など、持続可能な都市政策の重要性について議論が交わされると聞いております。非常に大事な会合ではないかと存じます。

こうした会合が、本市高松市で開催されることは、本市として「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現に向け、都市機能の集積や公共交通の再編などに取り組んでいる、本市にとりまして、非常に有意義なことであると思っております。市民の皆様にも、ぜひ、注目をさせていただきたいというふうに存じます。

また、御承知のように、すでに、歓迎ムードを盛り上げるために様々な関連イベントを開催いたしております。

5月21日（日）に開催しました「持続可能な都市の実現を考える」シンポジウム、また6月3日（土）の「学生サミットin香川・高松」それぞれ会場は、ほぼ満席でございました。関心の高さがうかがえたものと思います。

また、先週は、私自身が「サミット給食」や、丸亀町のおもちゃ美術館で行われております「G7祭（まつり）」にも参加させていただきました。

「サミット給食」では、子どもたちも外国の文化に興味津々の様子でございました。食を知ることから外国のことに関心を持つというのは非常に有効だなというふうな感想を持ちました。

また、「G7祭」では、先週金曜日から、大人も楽しめるイベントとして、ミュージアムツアーやギャラリートークを行う「ナイトミュージアム」が始まっております。多くの方が来館されておったところでございます。

このようなところからも、都市問題会議への機運が高まってきているのかなと思っております。

また、会合直前の6月29日（木）には、ゴミのない、きれいなまちで、各国

の関係者をお迎えしたいということで、メイン会場となるサンポート高松周辺や、中央通りなどで一斉清掃を行うこととしております。

また、私も一斉清掃の当日、サンポートの合同庁舎周辺で清掃活動を行う予定といたしております。ぜひ、周辺の企業の方々を始め、多くの皆様方に御協力をお願いしたいと存じます。

さらに、サンポート周辺や中央通りなどでは、警備の関係から、交通規制や検問を行う場合がございます。

このため、迂回路も含む周辺の道路では、交通渋滞が発生する可能性がありますので、市民の皆さまには、できるだけマイカー利用の自粛、公共交通機関の利用などをお願いしたいと存じます。

とにかく都市大臣会合が、「高松で開催されてよかった」と思っていたけるように、温かい「おもてなし」で、お迎えしながら、高松の魅力を、国内外に向けて最大限発信することによりまして、本市の観光や経済の活性化などにつなげてまいりたいと思います。

報道各社の皆様方の積極的な取材、御協力をお願いいたします。

それでは、題材に入らせていただきます。

スライドをご覧ください。本日は、2件でございます。

「まちづくりタウンミーティングの開催」と「高松市美術館開館35周年記念特別展 上田薫（うえだ かおる）展の開催」でございます。

まず、「まちづくりタウンミーティング」の開催でございますけれども、現在、本市では、令和6年度からの市政運営の基本指針となります総合計画を策定しているところでございます。

このタウンミーティングでございますけれども、私が直接、市民の皆様から、まちづくりに関する意見やアイデアを伺って、それを新しい総合計画に反映していくために開催するものでございまして、7月下旬に3回ほど予定をしております。

日程は資料に書いてあるとおりですが、25日（火）が本庁舎、28日（金）が仏生山交流センターで開催いたします。両日とも、午後7時からの開始となっ

ております。

また、29日（土）、午後1時30分からは、県外も含めまして、より多くの方にご参加いただけるようにオンラインでの開催をいたします。

市民の方にとどまらず、市内で仕事をされている方など、ぜひ、大勢の方々に、参加していただき、建設的なご意見を、どしどし発言していただききたいと思っております。

魅力あふれ、活力ある高松を目指して、たくさんの御提案・アイデアを、直接、お聴きできることを、私自身も楽しみにしております。多くの皆様の御参加をお待ちしております。

続いては、高松市美術館の開館35周年を記念した、日本におけるスーパーリアリズムの第一人者である「上田 薫（うえだ かおる）」さんの作品を紹介する特別展を開催いたします。

今回の展覧会でございますが、生卵やゼリー、しゃぼん玉など、身近な題材を、超写實的に描いた油彩画から、これまで公開されなかった大学時代のデッサンやスケッチ、また、色鉛筆や鉛筆で描いた最新のイラストまで、約120点を展示いたします。

会期は、7月15日（土）から9月18日（月）まで、7月16日（日）には、子どもたちがスプーンに映り込む世界を画用紙に描き出すワークショップ「スプーンのなかの世界」なども開催いたします。

また、本展開催中の8月5日（土）は「美術館の日」でございまして、どなたも観覧料無料で御覧いただけます。

ぜひ、多くの皆様にお越しいただき、瞬間を鮮やかに描き出す「上田 薫」さんの世界を楽しんでいただきたいと思います。

## 【記者質問】

### 【記者】

国が「こども未来戦略方針」を閣議決定したが、それに対する受け止めと、要望は

### 【市長】

少子化対策につきましては、以前にも申し上げましたが、令和4年の出生数が、統計開始以来、初めて80万人を下回って、また合計特殊出生率も、1.26と、過去最低になったということですので、非常に厳しい状況にあるものと思います。それに応じて国全体として、思い切った少子化対策をやらなければならないということで、異次元の対策という形で、今回「こども未来戦略方針」に示された「こども・子育て支援加速化プラン」が示されて、新たな施策が打ち出されたところでございます。今、お話ございましたように、児童手当の所得制限撤廃、それから高校生までの支給拡大など、子育てに係る経済的支援の強化をしようということで、かなり意気込みが感じられる施策になっているというふうに思っております。

また、子育て家庭が柔軟に保育所等を利用できる「こども誰でも通園制度（仮称）」なんかも創設しようということや、あるいはヤングケアラーでありますとか、医療的ケア児など、新たな課題への支援体制の強化なども盛り込まれておりますし、育児休業給付の増額など、共働きの環境を前提とした、環境を社会的に整えるための施策などの具体策が盛り込まれているということで、かなり広範囲に渡って思い切った施策がとられているなということで、一定の評価はさせていただきたいと思っております。

私が選挙においてマニフェスト2023で子ども子育て支援策の充実ということで掲げている項目もかなりの部分入っておりますので、それについては評価をしたい、私と考え方が同じ方向を向いていると思っておりますし、実際打ち出された施策についてしっかりとやっていただきたいと思いますと思っております。

ただ、中身で色々細かく見てみますと、例えば75年ぶりとなる保育士の配置

基準の改善等も盛り込まれております。幼児教育や保育の質に向上に資するよう  
にということではございますけれども、そうなりますと、保育士がますますたく  
さん必要になってきますし、まだ処遇改善という問題もありますし、まだまだ待  
機児童の問題もあります。今、すぐにはこの保育士の配置基準の改善はすぐには  
難しいのではないかと考えているところでございますし、特に私共市長会を通じ  
て要望しております、例えば全国一律の子ども医療費の無料化創設でありますと  
か、あるいは今問題になっている給食費についてどうするのかという方向性、そ  
の辺りもまだ全然出されていない状況でございます。

また、教育分野での思い切った踏み込みもあんまり見られないということでご  
ざいますので、その辺について今後の対策等に期待をいたしたいと思っております。

**【記者】**

国の調査でマイナポイントを誤付与した事案が全国で多数確認されたが、それ  
に対する受け止めは

**【市長】**

マイナンバーカードの指定口座への紐づけにつきまして、他人の口座が指定さ  
れていた事例というのが本市においても過去に2件あったということで発表させ  
ていただいておりますけれども、それ以上に今回の調査では0件だったというこ  
とですが、いずれにいたしましても、これは人為的ミスということでございます  
ので、チェック体制が十分行き届いていなかったということでございまして、そ  
のことについては心からお詫び申し上げたいと存じます。

ただ、その時点におきまして再発防止策等もきちっと取られておりますし、私  
までは案件の報告が上がっていなかったということですが、危機管理として副市  
長まできちっとあげた上で、了承を得た上で処理をされているということでござ  
いますので、それ自体は問題は特にないと思っております。

いずれにいたしましても、今後二度と同じことが起こらないような対策という  
のが必要であろうと思っておりますし、再度全般について、マイナンバーカード  
に係る預金口座の紐づけ等について問題がないかどうかもう少ししばらく見てお

く必要があるのではないかと考えております。

【記者】

マイナ保険証のトラブルも多く確認され、市民からも不安の声が上がっているが、その受け止めは

【市長】

健康保険証をマイナンバーカードで代替をした上で健康保険証を廃止しようという方向につきまして、かなり多くの国民の方が不安に思っているというのは報道でも承知しているところでございます。

ただ、医療費を全体として適正化していく、あるいは、個々の人が医療を適正に受けられるような体制を取っていくというメリットもあるわけでございます。マイナンバーカードによって個人の医療情報が一元化され、よりの確な医療が受けられるようにもなるという面もあるわけでございますので、その辺メリットデメリットそれぞれをもう1度きちっと勘案した上で、制度設計を国にはお願いしたいと思っております。

【記者】

マイナンバーカードに関する市のトラブル防止策は

【市長】

もちろんシステムの設計でミスが起こってはどのようなことでもございませぬので、システム設計に誤りがないように重々気をつけていただくということと、そのシステムを運用する人為的ミスが今回起こっているわけですので、人為的ミスが起こらないようなチェック体制について、国の方がきちとしたマニュアルのひな型を示しながら、それを基にそれぞれの実行部隊である地方自治体が、ミスが起こらないような体制を具体的にそれぞれの自治体の事務処理において考えていくということが必要だと思っております。

その辺をきちっと丁寧にやっていくということが何よりも大事だと思っております。

【記者】

高松市の保育士の現状に対する受け止めは

【市長】

高松市におきましては、まだ待機児童が発生して、かなり少なくなはってきていますが発生している状況でございます。1番の要因は保育士不足ということでございまして、保育士不足の原因となると処遇改善、処遇が低すぎるということでなかなか保育士が、潜在保育士の方が現場に出てきてくれないという状況がございまして、まずはその辺の処遇改善をして、保育士の確保策をやっていかなければならないと。その上である程度、配置基準を充足した上で、改善を図っていくべきと考えているところでございます。

もちろん高松市ももう少しで待機児童0になりますし、今後は子どもの数も減っていくということで、ある程度の改善は出来得ると思っておりますが、少し、今すぐにやれということになると難しいのではないかと判断しているところでございます。

【記者】

保育士の処遇改善などを行う考えは

【市長】

今、保育士確保策で、私立の保育所について保育士確保のための色んな支援制度を設けています。あるいは潜在保育士が現場に復帰できるような支援制度も設けているところでございますので、そういうのを活用しながら保育士を確保し、待機児童をどうにか0に持っていきたいというのが、今やっている政策でございます。

【記者】

9月まで小中学校の給食費を無償化するが、10月以降も継続する考えは

【市長】

高松市の給食費については令和4年度3学期分を無償化して、令和5年度においても臨時会の補正予算において3か月分を無償化したところでございます。それはあくまでも臨時的な物価高騰等に伴う子育ての経済的負担を少しでも軽減したいということで臨時的、特例的に行ったものということでございまして、今後どうするかということについては、国の議論の動向を踏まえて判断してまいりたいと考えています。その考え方は変わっていません。

【記者】

【給食費の無償化】

国の動向を踏まえて判断するとのことだが、交付金などの関係なのか

【市長】

今回の3か月分給食費無料化も交付金を活用してということでございますので、もちろん財源状況も見ながら判断していくということになりますが、恒久的な制度ということになりますとやはり国の議論、制度改革を待って、高松市として慎重に判断をした上で進めてまいりたいと考えております。

【記者】

放課後児童クラブが一部民間に委託される予定だが、同クラブの現状に対する受け止めは

【市長】

高松市におきましては、先ほどの保育所と同様、共働き家庭の増加等によりまして、放課後児童クラブの待機児童数がこの5月1日現在で82人ということになっておりまして、その解消が急務となっているところでございます。一方で放課後児童クラブには公設のクラブと民間のクラブがございますけれども、そんな中で今後待機児童を減らしていくために、いかに放課後児童クラブの定数等を増やしていけるかということですが、非常に放課後児童クラブは事務処理が大変で、なかなか支援員の確保というのが非常に難しくなっている

と、そこを公立を中心にやっていくということになりますと、かなり困難な状況でございます。一部事務について、民間委託した上でより効率的に事務をやって、デジタル化などを進めて、民間事業者のノウハウを最大限生かして、人材確保やICT化による事務の効率化をやってまいりたいと、それを目的に民間委託を進めようとしているということでございます。

これは民営化するということではなく、あくまで民間、事務の民間委託ということでございまして、他都市の事例等も参考にしながら令和6年度4月から全面的に進めていきたいと思って、当初予算で計上しているものでございます。

ただ、今、事業者等に周知をしている段階でございまして、利用者の皆様に十分情報が行き届いていなかったということについては、お詫び申し上げたいと思います。これから利用者の皆様方の御意見等も伺いながら、よりの確な運営ができるように、あるいは効率的な運営ができるような体制で民間委託を進めてまいりたいと思っています。

【記者】

【放課後児童クラブの民間委託】

令和10年度以降の予定は

【市長】

とりあえず民間委託契約が5年間契約ということで令和10年度になっているかと思いますが、それ以降はその段階において判断して、委託を継続するかどうかということになるかと思っています。

【記者】

【放課後児童クラブの民間委託】

市の財政状況によっては委託を止めることもあり得るのか

【市長】

財政状況というか、民間委託の運営状況を見ながら、委託の方がいいということであればそのまま継続する、あるいは改善しながら継続するということになる

でしょうし、委託はなかなか難しく直営の方が望ましいということになればそういう可能性もあります。

【記者】

ジャパンパラリンピックの高松市での開催は2回目となるがその受け止めは

【市長】

屋島レクザムフィールドにつきましては、バリアフリー化が徹底しているということで、日本障がい者協会からかなり高い評価を得ておりまして、ジャパンパラリンピックにつきましても、3年ぶり2回目ということで来年の開催が決まったということでございます。

ジャパンパラ陸上といのは、パラ陸上オリンピックの中では日本で最大規模の大会とお聞きいたしておりますので、それが再び高松で開催できるということは非常に嬉しい光栄なことだと存じます。

ただ前回、コロナが急激に感染拡大している時で、急遽無観客試合とならざるを得なかったということで非常に残念でございましたので、今回はきちっと観客を入れて、特に子どもたちに身体障がい者の方々のスポーツということで、パラ陸上スポーツというものはこういうもので素晴らしいんだよということを見ていただくように、そういう機会にできたらなと思っています。

【記者】

【放課後児童クラブの民間委託】

「利用者への周知が十分にできていない」とのことだが、苦情や問い合わせが多数寄せられたのか

【市長】

直接的にはお聞きいたしておりませんが、そういう声があるということをお聞きしただけで、まだ十分にその辺に周知徹底がなされていなかったということで、これからきちっと丁寧に説明をしてまいりたいということでございます。

民営化されると、間違えて捉えられている部分もあるような気がしますので、

あくまで事務の民間委託ということでございまして、料金を決定したり、入退の決定をするのは、あくまで高松市が責任を持ってやりますということをきちっと丁寧に説明してまいりたいということでございます。

【記者】

【まちづくりタウンミーティング】

「意見交換会をより充実したものにしたい」とのことだが、それをどのように活かすのか

【市長】

今回のタウンミーティング、実際の対面方式を本庁と仏生山でやると同時に、オンライン方式で誰でもどこでも参加できるような形でのタウンミーティングをやるようにしています。人数も無制限ということで、色々な方が参加していただくようお願いしたいと思っています。

これ以外にも例えば、学生やそういう若い人からの意見を聞く機会や、そういうものについても色々考えていきたいと思っています。

タウンミーティングとしてはこのような形でやらせていただきたいということでございます。